

# TC02S

2:Ver1.10

TCD2SER2 Util Ver1.3.1.0

Timecode Sync for CFR

取扱説明書



この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。その後大切に保存し必要なときにお読みください

## 安全上のご注意

- ご使用前に、この『安全上のご注意』をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための内容を記載していますので必ずお守り下さい。
- ◆次の表示区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

 <b>警告</b>	この表示は、取り扱いを誤った場合、 <b>死亡または重傷などを負う可能性</b> が想定される内容です
 <b>注意</b>	この表示は、取り扱いを誤った場合、 <b>傷害を負う可能性が想定される場合及び物的損害のみの発生</b> が想定される内容です

- ◆次の絵表示の区分はお守りいただく内容を示しています。

 <b>禁止</b>	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
 <b>強制</b>	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



## 警告

- ⊗ **分解、改造をしない**  
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊗ **金属類を差し込まない**  
隙間などから金属類を差し込んだりしないで下さい。火災感電故障の原因になります。
- ⊗ **濡らさない**  
水などの液体が入ると発熱、火災、感電、故障の原因になります。
- ❗ **ACコンセントは確実に差し込む**  
コンセントの差込が不完全だと発熱、火災、感電の原因になります。
- ❗ **コネクターは確実に差し込む**  
コネクターの差込、締め付けが不完全だと発熱、火災、感電の原因になります。
- ⊗ **ACコードを傷つけない**  
コードを無理に曲げたり加工したり、引っ張ったり、重い物を乗せたりしないで下さい。
- ❗ **異常が起きたときは**  
万一、発煙、異臭、異常音などがあった時は直ちにACコンセントを抜いて販売店にご連絡下さい。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因になります。



## 注意

- ⊗ **煙や湯気が当たる場所に置かない**  
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊗ **湿気やほこりの多い場所に置かない**  
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊗ **不安定な場所や振動の多い場所に置かない**  
落ちたり、倒れたりするとけが、故障の原因になります。
- ⊗ **ACコンセントから抜くときはプラグをもって抜く**  
コードを引っ張るとコードが傷ついて火災、感電、故障の原因になります。

## 目次

1. 概要	1
2. 設置について	1
3. 動作・設定	1
3-1. 接続	1
3-2. 電源投入	1
3-3. 設定	1
4. PC を繋いでの設定	3
4.1 ドライバーのインストール、設定	3
4.2 編集ソフト	5
5. 仕様	7

## 1. 概要

本機は、タイムコード（SMPTE、MTC）を受けて CF Recorder のプログラムを RS232C 経由で呼び出します。

- 実行 CUE は 128 個作ることが出来ます。
- タイムコードは SMPTE (30F Drop,NonDrop),MTC を受けることが出来ます
- タイムコード信号が途切れ時に、BACK UP 機能に設定したプログラムを呼び出すことが出来ます。
- WindowsPCを繋ぐ事で設定を行ったり、設定を保存、読み込み出来ます。

## 2. 設置について

本機の設置にあたっては以下の注意を守って下さい。

- 直射日光の当たる場所、周囲温度・湿度の高い場所、ほこりの多い場所での使用は避けて下さい
- RS232Cケーブルは電源ケーブルと一緒にしないで下さい。またマイク等の小レベル信号のケーブルと一緒にするとノイズを与える可能性がありますので、できるだけ避けて下さい。
- ケーブル類の着脱は必ず電源がOFFの状態で行って下さい。
- 電源は定格以内で、変動やノイズの少ない物を使用して下さい。また調光ユニットの出力は絶対に使用しないで下さい。

## 3. 動作・設定

### 3-1. 接続

タイムコードを 3P キャンオン（SMPTE）または MIDI ポート（MTC）に接続して下さい。

RS232C ストレートケーブルで本機と CF Recorder を接続して下さい。

※ケーブル長が足りない場合は別途 RS232C ストレートケーブルをご用意下さい。

### 3-2. 電源投入

1. 全ての接続が終了したら、電源を差し込んで下さい。
2. 液晶が表示されタイムコード受信状態になります。



### 3-3. 設定

#### 1. CUE の設定

MENU ボタンを押します。

## EDIT MENU ## CUE
------------------------

CUE の編集画面に切り替わります。

ENTER を押して下さい。

## EDIT MENU ## >CUE 0■
----------------------------

CUE 番号を▼ ▲ で選択し ENTER を押します。

CUE1 ■ 00 : 00 : 00 : 00
-----------------------------

設定した CUE で呼び出したい CF Recorder のプログラム番号を▼ ▲ で選択し ENTER を押します。

P1～P64(プログラム),PS1～PS4(スタック)が設定出来ます。

CUE1 P1  
 0:00:00:00

カーソルが時間欄に移動します  
 ▼ ▲ で設定して **ENTER** を押します。  
**ENTER** を押す毎にカーソルが右に移動します。  
 単位は時、分、秒、フレームになります。  
 カーソルが右端まで行くと最初の画面に戻ります。

## EDIT MENU ##  
 CUE

## 2. BACK UP の設定

**MENU** ボタンを押します。

## EDIT MENU ##  
 CUE

**CUE** の編集画面に切り替わります。

**ENTER** を押して下さい。

## EDIT MENU ##  
 >BACKUP

**CUE** 番号の画面で **BUCK UP** が表示されるまで、▼ ▲ を押し、**ENTER** を押します。

BACKUP █

**BACK UP** で呼び出したい **CF Recorder** のプログラム番号を▼ ▲ で選択し **ENTER** を押します。

## EDIT MENU ##  
 CUE

**ENTER** を押すと、最初の画面に戻ります。

## 3. タイムコード入力の切替

**MENU** ボタンを押します

## EDIT MENU ##  
 CUE

この画面で▼ ▲ を押すとタイムコード入力設定に切り替わります。

## EDIT MENU ##  
 INPUT

**ENTER** を押します。

## EDIT MENU ##  
 >INPUT SMPTE █

▼ ▲ で **SMPTE** か **MTC** かを表示させて **ENTER** を押します。

## EDIT MENU ##  
 >INPUT MTC █

注：入力切替を行った後は一旦電源を入れ直して下さい。

LTC 00:00:00:00  
 PS1 00:00:05:00

実行画面の右上で現在の入力を確認出来ます  
**LTC : SMPTE**  
**MTC : MIDI TIME CODE**

編集中に **MENU** ボタンを押すといつでも実行画面に戻ります

## 4. PCを繋いでの設定

---

本機は、USB 端子を使って WindowsPC から設定を行い、設定を保存、読み込むことができます。

### 4.1 ドライバーのインストール、設定

#### 4.1.1 ドライバのインストール

Windows XP, Vista, 7, 8,10 (32 , 64bit 共通)の場合は

製品に付属している USB メモリーを、PC に接続し、メモリーの中にある **driver** フォルダから **CDM21XXXX\_Setup.exe** (XXX 部分はバージョンによって数字が入ります) をダブルクリックして、実行してください。

Windows 8.1 の場合は

**CDM v2.0XXX WHQL Certified for Windows 8.1.exe** を実行して下さい。

実行すると、ウィンドウが開き、自動的にインストールが行われます。

インストール終了後にデバイスマネージャーで、**COM** ポートの確認を行い、製品と **PC** を接続してください。

※ドライバーのインストールは、製品を接続して、ソフトウェアを立ち上げる前に行ってください。

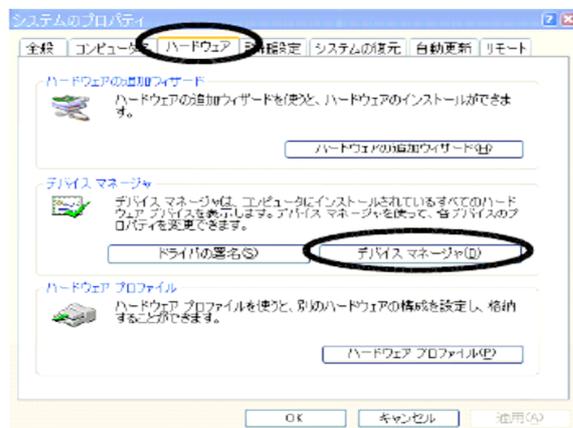
## 4.1.2 COMポートの確認

ドライバーのインストールが終了したら、COMポートの設定を下記のように行ってください。

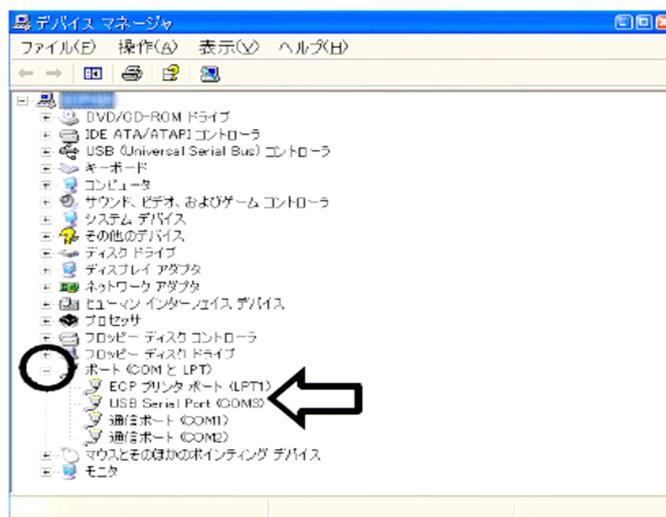
### COMポート番号の確認

仮想COMポートドライバーをインストール後、COMポートとして何番が割り当てられたのかを確認します。このCOMポートの値は変更することもできます。確認は、Windowsの「デバイスマネージャ」を利用します。「デバイスマネージャ」の起動方法はWindows98及びMEと、Windows2000及びXPとは異なっています。

- 1 テスクトップの「マイコンピュータ」の上で右クリックします。メニューから「プロパティ」をクリックします。
- 2 「ハードウェア」タブに移動し、「デバイスマネージャ」ボタンを押します。デバイスマネージャが表示されます。



- 3 「デバイスマネージャ」の一覧から、「ポート(COMとLPT1)」をダブルクリックして内容を開きます。



「+」印が「-」印になりポートの一覧が表示されます。

この一覧で、「USB Serial Port (COMx)」が、本機に割り当てられたCOMポートです。COM番号を確認してください。右クリックしてプロパティを開くと変更も出来ます。パソコンからは、このCOMポートへアクセスすることで、本機と通信できます。

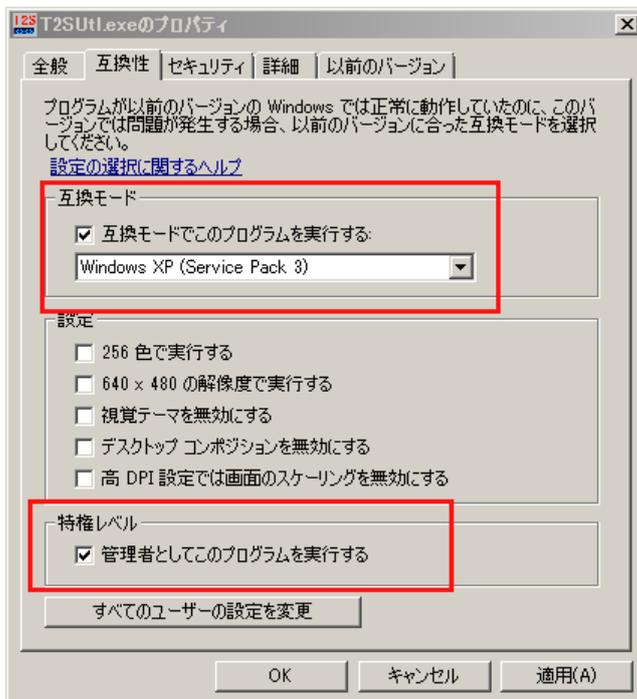
## 4.2 編集ソフト

付属 USB メモリー内の T2SUTL フォルダを、フォルダごと PC の適当な場所にコピーしてください。フォルダ内にある T2SUtil.exe を実行すると、ソフトウェアが立ち上がります。

Window 7 以降のパソコンの場合はプログラム起動前に下記の設定を行って下さい。ソフトウェアの「T2SUtil.exe」ファイルを、右クリックしてプロパティを表示させます。

名前	サイズ	項目の種類	更新日時
PCOMMDLL	76 KB	アプリケーション拡張	2005/09/22 12:59:10
T2SUtil.exe	3,695 KB	アプリケーション	2014/01/15 14:50:00

互換性タブを選択します

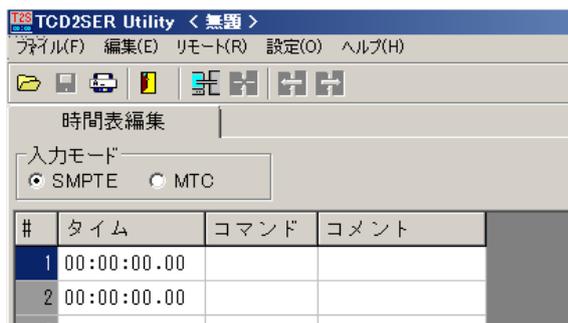


互換モードの欄でチェックを入れて WindowsXP (Service Pack 3) を選択して下さい。

特権レベルの「管理者としてこのプログラムを実行する」にもチェックして下さい。

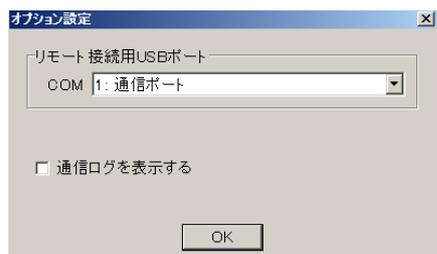
適用を押して OK で閉じて下さい。

## 4.2.1 準備



本体と通信する場合は **COM** ポートの設定を行います。

### 設定 - オプション設定

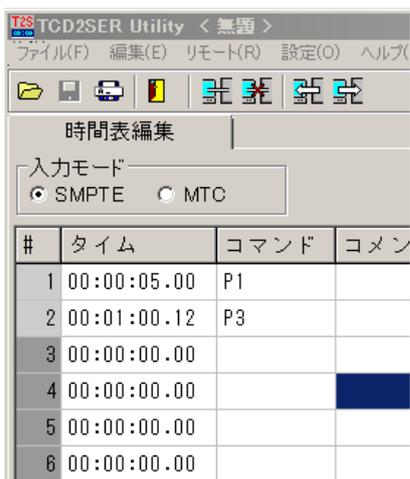


「4.1.2 **COM** ポートの確認」で設定した **COM** ポート番号を選択します。

## 4.2.2 CUEの作成



本体を接続してソフトを起動するとデータ受信画面が開きます。



**時間とコマンド**を設定したら最後に「リモート」－「データ転送」で作成したデータを本体に転送して下さい。

**CUE** は最大 **128** 個、作成することができます。

**CEU** 作成ページの一番下の項目 (**BAK**)にて、**BACK UP** を設定することができます。

## 5. 仕様

入力 <b>SMPTE</b> コネクター <b>MTC</b> コネクター	<b>ノイトリック XLR タイプ 3P メス (バランス、2 番 HOT)</b> <b>DIN5P</b>
出力 <b>RS232C</b>	<b>Dsub9P (CF Recorder 専用コマンド)</b>
電源 定格電力 外形寸法  動作温度、湿度	<b>AC 90 ~ 240 V 50 / 60 Hz</b> <b>5 W</b> <b>W : 213 H : 41.4 D : 134 (突起部除く)</b>  <b>0 °C ~ 50 °C、10 % ~ 85 % (結露無し)</b>

本製品及び本書の内容は予告なしに変更される事がありますのでご了承下さい

(本書製作日2022年3月4日)

